

# 京都脱出か進出か動く企業



京都に本社を置くメタル一が、相次いで首都圏に研究拠点を置いている。一方で、京都に目をつけて、新しい拠点を設ける企業もある。どちらの動きにも、人材確保のための戦略がにじんでいる。

窓から東京大学の建物が見える、東京・本郷。電子機器大手のオムロンは、4月に立ち上げた「オムロンサイニックス」(OSX) の拠点に、ここを選んだ。OSXは、すでにオムロンが持っている技術と、新しい技術を組み合わせてビジネスにつながる研究を担う。

東大などの教授や学生、ほかの企業の研究者らに、どんどんオフィスに来てもらいたい。とくに欲しいのは、人工知能(AI)に関する

人材確保狙い 拠点移す

日本では、専門知識を学ぶ研究者や学生は首都圏の大学に集中している。そこでこの4月、AIの研究部門だけ、京都府木津川市にある研究施設から東京に移した。OS Xの諷訪正樹社長は「東京を離れずに働きたい人が多い」と、人材の確保策だと明かす。京セラも昨年9月、横浜市緑区の事業所内にAI研究の拠点を開設した。村田製作所も2020年に、横浜・みなとみらい地区に1千人規模の研究拠点を開く。いずれも本社は京都だが、首都圏の大学や企業との連携や人材確保が狙いだ。

オムロン→A | 技術者・パナ→海外デザイナー

一はこれまで、大阪府門真市や滋賀県草津市の工場内などに分散して配置されていた。新拠点に集めることで、試作の段階で多様なアイデアを出し合い、意見をぶつけあえるしくみを整えた。4月下旬に開いたメーディア向けの施設説明会では、地元の職人と一緒にデザインした家電を披露した。例えは、竹材のカバーが付いた送風機など、一見すると工芸品に見える製品が並んだ。新拠点を京都に置くもう一つの狙いは、外国人デザイナーの呼び込みだ。デザインセンターの臼井重雄会長は「京都の職人と外国人デザイナーが組めば、伝統とグローバル感覚を併せ持つ、新しい発想の家電が生まれる」と期待する。

パナソニックの国内拠点にはこれまで、外国人デザイナーはわずか4人しかいなかった。京都効果はさうそく表れ、入社を迷っていた米国人デザイナーが今春、勤務地が京都だと告げ

専門知識大  
会

企業の研究拠点が研究者を求めて「出向く」なら、大学側は企業が欲しがる人材育成にも力を入れる。名古屋大学は昨年度、A.I.やモノをインターネットにつないで便利に使う技術「IOT」などを専門に学ぶ「情報学部」を新設した。村瀬洋・学部長は「企業は自動運転の研究などで高度な情報処理技術に精通した人材を欲しがっており、こうした分野で世界で活躍できるリーダーを育てる。共同研究も積極的に進め、産学連携を深めたい」と話す。

LINEは6月、京都市内に開発拠点を設ける。東京、福岡に次ぐ3カ所目の

白井氏は「海外デザイナーにとって、日本文化を肌で感じられる京都に住めるのは、非常に魅力的だ」と話す。

は情報工学部の能情報工  
学科に「データ科学」「人工  
知能」「メディア情報学」  
の3コースを新設した。企  
業の技術者を招いた講座や  
シンポジウムも開く。  
京都学園大学（京都市）  
は来年4月、校名を京都生  
端科学大学に変える。工学  
部や大学院工学研究科を新  
設し、モーターやロボット  
開発、AIに強い人材育成  
を目指す構想だ。日本電気  
の永守重信会長兼社長が提  
案した。「世界から学生が集まるよ  
うにしたい」と話す。（神  
山純一、伊藤弘毅、米谷陽一）